

3月定例活動

第11回萌木まつり ～竹柴垣づくり～



今年は桜の開花宣言も3月19日と例年より早く、相生山のヤマザクラも咲きそろった3月28日(土)、恒例の萌木まつりが開催されました。ここ数年萌木まつりのテーマは「食の楽しみ」に決めており、春の食材や会員手作り

のごちそうを萌木の下で楽しむ趣向です。

さて、食の報告は後にして、今回は私が大高緑地の竹林散策路で見つけた見事な竹の柴垣を相生山にも造ろうとの計画です。揃いましたのはNPO「オアシス造園土木」の作業員約10名、施工場所は山根口から小屋に向かう竹林の横「野辺の小径」です。

まず小池さんが買ってきた木杭を1.5m間隔でカケヤを使って打ち込み、トンボ池の横の竹林で除伐した竹を表側2本、裏側1本で結束し、その間に竹の枝の柴材を入れ込み、きれいに刈りそろえるというものです。

ここで力を発揮したのが元造園師の宮田さん、竹の結束から刈込まで手慣れたもので、その出来栄はまさにプロ、総延長約30mの竹垣が午前、午後とみんなの協力で出来上がり、施工前・施工後の工事写真を見ていただければその施工能力の高さがよく分かります。

竹垣班以外のメンバーは、ここ数回手を入れ続けている、トンボ池横の雑木林に竹が侵入した箇所を除伐を行いました。また、炊事班も朝からトン汁の準備と竹炭による調理の段取りと大忙しです。昼には、トン汁をはじめ、タケノコ、エリンギ、厚揚げなどの焼き物と五平もち、ヨモギ餅まで、デラックスな御馳走の大盤振る舞い。ビールも入って、楽しい一日でした。

(大館)



▲竹柴垣づくりなどで一汗かいた後の昼食タイムを満喫



▲施工前の野辺の小径



▲木杭を1.5m間隔で打ち込む



▲木杭を挟み込むように水平方向に竹を三段結束し、その間に葉のついた枝をギュッと押し込む



▲施工完了後、まるで嵯峨野みたい



▲枝の上部を刈り揃える



宮田 浩一さん

「広報なごや」で森くらぶの活動を知ったとのこと。もともと造園会社に勤めており、定年後、時間に余裕ができたことが参加のきっかけになったそうです。天白区土原在住。